

Title	法学研究 第六十三巻(平成二年自一号至十二号)総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1991
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.64, No.2 (1991. 2) ,p.1- 8
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19910228-0167">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19910228-0167</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 法学研究 第六十三巻

(平成二年自一  
至十二号)

## 総目次

### 論 説

	号	頁	執筆 者
森戸事件と黎明運動	一	一	内 山 秀 夫
登記の推定力(二) —比較法的考察—	一	三	七 戸 克 彦
道化師の Alternative —レンチェク・ユラロフスキーとマルクス主義—	二	九	奈 良 和 重
戦後日ソ関係の一考察 —日本対外文化協会の活動を中心として—	二	三	池 井 優
EC「一九九二年」の域外へのインパクト	二	三	田 中 俊 郎
神話の合理性? —《合理性》概念再検討のために—	二	三	萩 原 能 久
現代中国の女子教育の展開 —社会主義中国に於ける社会変革のケーススタディ—	二	九	秋 吉 祐 子
ゴルバチョフ政権下におけるソ連邦共産党の変化	二	三	上 野 俊 彦
ソビエト政権初期の対日政策(一九一七・一一～一九二一・八) —対米政策との関連で—	二	三	小 澤 治 子
日本の対ソ民間経済外交 —訪ソ経済使節団(一九六二年)を中心として—	二	三	木 村 昌 人

北朝鮮における主体思想の新転回	二二	鐸木昌之
―「社会政治生命体」論を中心に―		
中華人民共和国建国初期の幹部問題(一九四九―一九五三)	二二	中村楼蘭
ロシア革命と日本のシベリア援助	二二	波多野勝
ゴルバチョフの軍事政策と党軍関係の一考察	二三	松井弘明
東欧社会主義国家の理論と現実	二四	森田昌幸
大東亜会議と大東亜共同宣言をめぐって	二五	安田利枝
日本社会学の最近の動向と反省	二六	川合隆男
登記の推定力(三・完)	二七	七戸克彦
―比較法的考察―		
広沢参議横死事件と安藤則命	二八	笠原英彦
スウェーデンにおける罰金制度の沿革	二九	坂田仁
―日数罰金を中心に―		
「唐六典」の日本における行用について	三〇	利光三津夫
欧州議会選挙とスペインの対応	三一	石井陽一
国際コミュニケーションの環境変化と、英・米高級紙の日本関連記事	三二	鶴木真
―コンピュータによる内容分析の手法開発をめざして―		
「東中欧の民主化」の新たな次元	三三	川原彰
―「市民社会」論と民主化プロジェクトの展開に即して―		
リビア・チャド合邦問題とOAU	三四	小田英郎
国際商事仲裁における仲裁人と仲裁引受に関する小考	三五	西川理恵子
ニーチェの超歴史主義批判のために	三六	奈良和重
政治戦略としての「ポスト・モダン」再考	三七	向山恭一
―「テロトピア」非権力の領域をめざして―		
わが国における刑事手続とコンピュータ犯罪(一)	三八	安富潔

南北朝争乱の一形態……………	九六	吉田通子
— 祇園社家の場合 —		
違法性における結果無価値と行為無価値(一)……………	十一	井田良
— いわゆる偶然防衛をめぐって —		
わが国における刑事手続とコンピュータ犯罪(一)……………	十七	安富潔
ロンドン海軍軍縮問題と浜口雄幸……………	十七	池井優
わが国における刑事手続とコンピュータ犯罪(三)・完……………	十七	波多野
違法性における結果無価値と行為無価値(二)・完……………	十七	安富潔
— いわゆる偶然防衛をめぐって —		
資金の洗浄(マネー・ロンダリング)と金融業者の責任……………	十九	宮澤浩一
— スイス刑法三〇五条の三を中心として —		
労働者と知識人……………	十九	中村勝範
— 治安警察法第十七条をめぐり —		
宗教法人の代表役員の解任権について……………	十九	石川明
— 宗教法人法の観点から —		
共同漁業権の法的性質と漁業補償……………	十九	新田敏
西ドイツの石油備蓄法(一九六五年)に関する一考察……………	十九	藤原淳一郎
独立企業間価格の実体的原則……………	十九	木村弘之亮
「賃料債権」上への抵当権の物上代位……………	十九	斎藤和夫
— 日本民法上の「収益型」物上代位(民法三七二条・三〇四条)の特異な「問題性」 —		
最近のアファーマティヴ・アクションをめぐる憲法問題……………	十九	大沢秀介
— クロソン判決を素材に —		
没収について……………	十九	平良木登規男
— 麻薬新条約、とくに利益没収理解のために —		
アメリカ雇用契約における労働者の誠意義務……………	十九	内藤恵

行政作用の違法と州の救済手続……………	三三三	田村泰俊
—合衆国法典四二巻一九八三条に基づく不法行為訴訟と手続的デュー・プロセス—		
応能負担原則の歴史的展開……………	三三三	吉村典久
法人所得税の統合による個人所得税の改革……………	三三三	木村弘之
		西村美

研究ノート

不正競争防止法一条一項二号の差止請求の要件……………	三六	石川明
西ドイツにおける国の基本権保護義務……………	七	小山川剛
ドイツ保全実務における保護書面の発展……………	七	出口雅久

資料

法律家特有の表現 VS. 平易な表現……………	一七〇	J. R. 木ケベンスン
—上訴審での準備書面の記述における説得性と信用性に関する実証的研究—		
—市民の裁判所へのアクセスの容易化のための実践活動についての比較研究(二)—		
裁判官の法発見における法律への忠実と正義……………	三	小川良一
複合的裁判権制度をめぐる典型的な諸問題……………	四	永井博史
国外的な効力を伴う民事裁判所の処置の限界……………	四	P. 井上威彦
		藤井まな
イギリス及びドイツの民事訴訟規則における事件処理の技術……………	五	O. 木ハルト
		三木浩
執行命令による公序良俗に反する割賦与信契約に基づく債権の執行……………	六	小池和彦

移転価格と多国籍企業（仮訳）（一）	七	OECD租税委員会
—一九七九年OECD租税委員会報告書—		木村弘之亮／訳
移転価格と多国籍企業（仮訳）（二）	八	OECD租税委員会
—一九七九年OECD租税委員会報告書—		木村弘之亮／訳
ドイツ連邦共和国における法律の合憲性の統制	九	ゲオルグ・レス
移転価格と多国籍企業（仮訳）（三）	九	栗田陸雄／訳
—一九七九年OECD租税委員会報告書—		OECD租税委員会
国際的財産売買に関するウィーン条約第五五条適用の法的観点	十	木村弘之亮／訳
—（オープンンプライズ契約）—		石川ダミ
移転価格と多国籍企業（仮訳）（四・完）	十	赤木英子／訳
—一九七九年OECD租税委員会報告書—		OECD租税委員会
移転価格に関するドイツ行政原則（仮訳）	十一	木村弘之亮／訳
	二〇	ドイツ連邦共和国 連邦大蔵大臣

判例研究

〔商法〕		商法研究会
三〇〇 約束手形の振出人が時効の利益を放棄した場合と裏書人の請求義務	一	黄清溪
三〇一 例 火災保険の目的物を譲渡担保に供した場合、保険会社は損害填補の責任を負わないとされた事	三	島原宏明
三〇二 代表取締役が代表取締役会決議を経ないでなした新株発行の効力	四	鈴木千佳子
三〇三 株の買い占めと検査役選任申請の権利濫用	五	岩瀬正通
三〇四 利益配当金支払義務の履行の時期	六	並木和夫
三〇五 会社と特定の株主との間における名義書換をしない旨の契約の有効性	七	加藤修
三〇六 使用人兼務取締役の手形行為権限の有無および小切手支払銀行の平面照合と過失の有無	八	久留島隆
三〇七 代表取締役の辞任の方法及び名目的代表取締役の対第三者責任	九	米津昭子

三〇八	有限会社の取締役は監視義務違反に基づく対第三者責任を負うか	十一	宮島司
三〇九	破産した同族会社の非同族名目的取締役の監視義務懈怠行為と第三者の損害との間に相当因果関係がないとして商法二六六条ノ三の責任を否定した事例	十二	近藤龍司

〔最高裁判事例研究〕

二七七	昭二八・七・三〇・第二小法廷判決・最高民集七卷七号八五一頁	一〇三	坂原正夫
二七八	昭二八・九・八・第三小法廷判決・最高民集七卷九号八八二頁	三二八	大濱しのぶ
二七九	元一 平元・三・二八・第三小法廷判決・最高民集四三卷三二号一六七頁	四二〇	宗田親彦
二八〇	昭二八・九・二一・第二小法廷判決・最高民集七卷九号九一八頁	五〇四	中村壽宏
二八一	昭二八・九・二五・第二小法廷判決・最高民集七卷九号一〇〇五頁	六一六	小池順一
二八二	昭二八・一〇・一五・第一小法廷判決・最高民集七卷一〇号一〇八三頁	七〇〇	坂原正夫
二八三	元二 平元・九・八・第二小法廷判決・最高民集四三卷八号八八九頁	八〇九	石川明
二八四	昭二八・一〇・二三・第二小法廷判決・最高民集七卷一〇号一一一四頁	九二二	越山和広
二八五	元三 平元・一一・一〇・第二小法廷判決・最高民集四三卷一〇号一〇八五頁	十〇五	岡野谷知広
二八六	平二一 平二・三・二〇・第三小法廷判決・最高民集四四卷二二号四一六頁	十一〇	笠原毅彦

〔下級審民事事例研究〕

3	口頭弁論期日呼出状の書留郵便に付する送達が無効とされた事例	一〇九	三上威彦
4	高松高裁昭和六三年九月六日判決・控訴事件、判例タイムズ六八四号二三八頁	三三三	石渡哲
5	商品売買後買主が破産した場合において売主は目的物である商品につき動産売買先取特権に基づいて差押承諾請求権及び引渡請求権を有するか消極的	四二九	豊泉貫太郎
	東京地裁昭和六三年六月二十九日判決・動産売買先取特権差押承諾等請求事件、判例時報一三〇四号九八頁		
	境界確定訴訟において甲地が関係者全員の共有に属し、かつ、共有者の一人である被告が甲地と自己に欠ける乙地との境界を争っている場合には、被告を除く他の共有者全員が被告となっていれば原告適格		
	東京地裁昭和六三年六月八日・判例時報一三〇九号		

民事訴訟法研究会

久保文明著『ニューディールとアメリカ民主政—農業政策をめぐる政治過程—』……………	一	二五	砂田一郎
井上勇一著『東アジア鉄道国際関係史—日英同盟の成立および変質過程の研究—』……………	一	二八	藤井昇三
シオドア・ローウィ著『個人的大統領—投資された権力と公約への不履行—』……………	三	三三	久保文三
クルト・サラムン著『イデオロギーと啓蒙—世界観理論と政治—』……………	三	三四	萩原能久
リリアン・クレイグ・ハリス著『エジプト—国内的挑戦と地域的安定—』……………	四	三三	富田広士
6 株式会社の負担する債務の担保としてその株式会社の有する営業権及びその株主の有する株式が譲渡された場合においてその株式会社が右営業権を更に他に譲渡した場合は、債権も弁済しなかつたときは、譲渡された株主は確定した債権を失うとされた事例……………	五	二七	上威彦
7 被告の法定相続分に応じた金銭の返還請求訴訟の一审係属中他の相続人が相続放棄をしたため被告の法定相続分が変つた場合において、全部勝訴の判決を受けた原告について控訴審で請求拡張するため被告の控訴の利益を認められた事例……………	六	三三	三木浩一
8 訴えの取下げが真意に基づかないものとして無効とされた事例……………	七	二〇	石渡哲
9 土地所有権に基づき所有権移転登記の抹消登記に代わる所有権移転登記請求をし敗訴した者が再度右抹消登記と土地の所有権確認を求め訴訟を提起した場合につき既判力及び信義則を理由に前訴と異なる主張をすることが許されないとされた事例……………	八	〇三	坂原正夫
10 一、同時破産廃止確定後の免責申立と破産債権者の強制執行の可否 二、免責申立中にした破産債権者の強制執行によって得たものは不当利益となるか……………	九	三三	宗田親彦
11 類似「流名」を使用して舞踊活動を行っている元名取に対して、家元から提起された「流名」等使用の差止め請求が認められた事例……………	十	二三	石川明

紹介と批評



カレル・フアン・ウォルフフェレン著『日本の権力の謎—国家なき国の人と政治—』……………	五二	添谷芳秀
マイルズ・L・C・ロバートソン著『ソ連の対日政策』……………	六四	仙洞田潤子
J・F・パウア編『〔電気〕エネルギー供給の新構造—国際的概観』……………	七二	藤原淳一郎
木村昌人著『日米民間経済外交—一九〇五—一九二一—』……………	八二	草野厚
手塚豊著作集 第七卷『明治民法史の研究(上)』……………	七二	池田真朗
藤田弘夫著『都市と国家—都市社会学を超えて—』……………	十三	有末賢
川合隆男編『近代日本社会調査史(I)』……………	十一	田中直樹

特別記事

玉井清君学位請求論文審査報告……………	一一	一三四
赤木完爾君学位請求論文審査報告……………	一一	一三〇
楠精一郎君学位請求論文審査報告……………	一一	一二九
黄自進君学位請求論文審査報告……………	一一	一四八
稲葉光彦君学位請求論文審査報告……………	一一	一四五
平良木登規男君学位請求論文審査報告……………	一一	一四八
芮鍾徳君学位請求論文審査報告……………	一一	一三六
藤原淳一郎君学位請求論文審査報告……………	一一	一三三
宮島司君学位請求論文審査報告……………	一一	一三七
増田弘君学位請求論文審査報告……………	一一	一四三
李元炯君学位請求論文審査報告……………	一一	一三九
宮本信夫君学位請求論文審査報告……………	一一	一四五